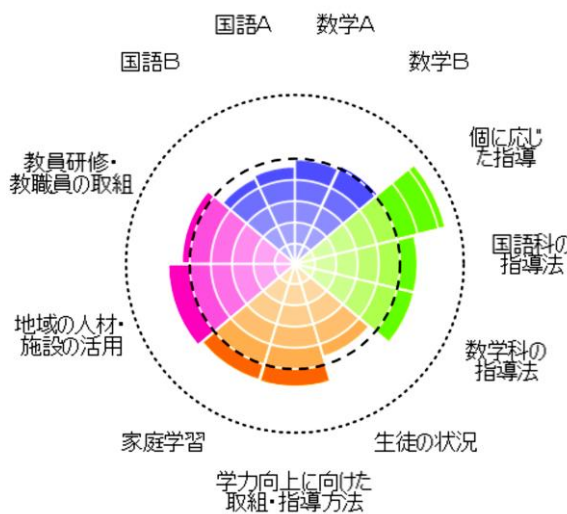


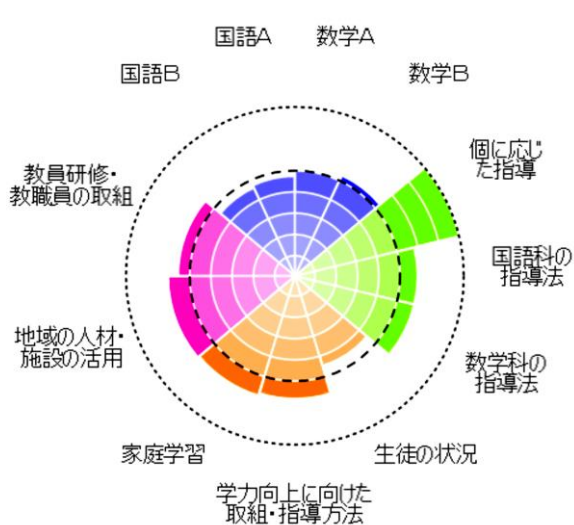
平成 29 年度実施 全国学力・学習状況調査の結果

文部科学省、全国学力・学習状況調査の結果が出ましたので報告いたします。調査内容は、3年生のみ、国語、数学、生活実態調査です。

生徒質問紙（全国基準）



生徒質問紙（神奈川県基準）



<調査結果の考察>

- ・国語は正答率が全国平均、神奈川県平均を下回っています。その原因として考えられるのが、学習言語（学習で使われる言葉）が十分身につけていない生徒が多いことが考えられます。港中学校は外国籍および外国につながる生徒の在籍も多く、基本的な日本語の学習が必要な生徒もいます。これまでも学習言語の習得には力を入れてきましたが、これからも全教科でその課題を認識し取り組んでいくことがさらに必要であると考えています。
 - ・国語では、昨年度と比較すると数値は上昇していましたが、話すこと・聞くことや書くこと、読むこと、伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項などの観点ごとに見ても、全国平均、神奈川県平均をわずかに下回っています。これは、全校平均や神奈川県平均と比べても無解答率が高く、どのように答えたらよいかわからない生徒が多いことから考えると考えられます。朝の読書や個に応じた漢字習得練習による成果は見られるので、今後も継続していくとともに、多様化した生徒の学習到達度に応じた学習指導を進めていく必要性を感じます。
 - ・数学では、昨年度に比べて数値は上がり、全国平均、神奈川県平均とほぼ同じになっています。今後も基礎学力の定着に力を入れていきたいと考えます。
 - ・生活実態調査では、級友と協力して何かを成し遂げた率が高いです。これは、体育祭や合唱コンクールなどの行事を通して、互いに支え合い、協力し合って達成感を得る機会があることに関係していると考えられます。逆に家庭学習の時間が平均より低く、寝る時間が遅い傾向が見られます。生活習慣の中では時間の使い方がうまくできない生徒、特にテレビゲームや携帯電話、スマートフォンを使う時間が多いことが気になります。家庭で自分一人で過ごす生徒が多いという本校の実態を踏まえた上で、自らがけじめをつけ、遊びと学習を上手に切り替えていける生徒に育てていくことが必要だと考えられます。
- ◎こうした結果より、これまでも取り組んできた、0時間目での基礎学習の定着や読書の習慣をさらに強化するような学習が必要であると考えられます。年2回、10級から2級まで個人選択での「港中学校漢字検定試験」の取り組みは相当な効果をあげていると思われます。合格者に認定証を与えるこの方法は生徒の自尊感情を高めるという意味でも効果的です。今後はさらに、言語理解の難しい生徒に対してもわかりやすい授業を展開することの必要性を感じます。普段の授業はもちろんのこと、個別での学習相談や長期休業中を使っての学習指導についても計画的に実践するなどの対策を学校としても取っていきます。